

福祉施設の指定管理者の評価結果について

1 目 的

指定管理者制度を導入した八丁堀保育園等福祉施設について指定管理者による施設運営の状況の評価し、今後の施設運営に反映させることにより利用者サービスの向上を図る。

2 各施設の指定管理者及び指定期間

1 2施設 7 指定管理者

対 象 施 設	指 定 管 理 者	指 定 期 間
①八丁堀保育園	株式会社 ベネッセスタイルケア	平成16年8月1日 ～平成26年3月31日
②堀留町保育園		平成23年1月1日 ～平成32年3月31日
③十思保育園	社会福祉法人清香会	平成21年8月1日 ～平成31年3月31日
④知的障害者生活支援施設 「レインボーハウス明石」	社会福祉法人 東京都知的障害者育成会	平成16年7月1日 ～平成26年3月31日
⑤知的障害者グループホーム 「フレンドハウス京橋」		平成18年4月1日 ～平成26年3月31日
⑥介護老人保健施設 「リハポート明石」	公益社団法人中央区医師会	平成16年7月1日 ～平成26年3月31日
⑦特別養護老人ホーム・高齢 者在宅サービスセンター 「マイホーム新川」	社会福祉法人賛育会	平成23年4月1日 ～平成33年3月31日
⑧特別養護老人ホーム・高齢 者在宅サービスセンター 「マイホームはるみ」		
⑨日本橋高齢者在宅サービス センター	株式会社ニチイ学館	平成23年4月1日 ～平成33年3月31日
⑩桜川敬老館・浜町敬老館・ 勝どき敬老館	アクティオ株式会社	平成23年4月1日 ～平成26年3月31日

3 評価方法

(1) 一次評価

ア 所管課による評価

各施設の所管課が、「福祉サービス第三者評価」、「事業者事業実績報告書」等

に基づき、公の施設として適正かつ効率的な運営や利用者の立場に立った運営がなされているかを評価した。

なお、評価項目・評価基準については「別紙１」のとおり。

イ 財務評価

公認会計士が、経営母体の財務状況を決算書等により評価した。

(2) 二次評価

「中央区福祉保健部指定管理者評価委員会」（以下「評価委員会」という。）が、各施設の指定管理者の一次評価を記載した「福祉施設における指定管理者の評価表」に基づき所管課から説明を聴取し、質疑を行った後、当該施設の指定管理者として適正か否かの評価を行った。

4 評価委員会

(1) 開催日

平成２５年１０月１６日（水）

(2) 構 成

	氏 名	区 分	役 職 等
委員長	橋 本 泰 子	学識経験者	大正大学 名誉教授
委 員	渋谷 貴 司	経営指導員	東京商工会議所中央支部事務局次長
委 員	鈴木 英 子	区民代表	主任児童委員
委 員	箕 輪 慎	区民代表	社会福祉協議会登録ボランティア団体うさぎの会代表
委 員	小 柳 昌 子	区民代表	介護相談員
委 員	平 林 治 樹	区 職 員	福祉保健部長
委 員	小 倉 草	区 職 員	高齢者施策推進室長
委 員	和 田 哲 明	区 職 員	中央区保健所長

5 評価結果

対 象 施 設	指 定 管 理 者	評 価		
		一次	二次	
八丁堀保育園	(株) ベネッセスタイルケア	85点	A +	適正
堀留町保育園		84点	A +	適正
十思保育園	(社福) 清香会	80点	A +	適正
レインボーハウス明石	(社福) 東京都知的障害者育成会	81点	A +	適正
フレンドハウス京橋		72点	A	適正
リハポート明石	(公益社団) 中央区医師会	80点	A +	適正
マイホーム新川	(社福) 賛育会	—	—	—
マイホームはるみ		—	—	—
日本橋高齢者在宅サービスセンター	(株) ニチイ学館	80点	A +	適正

桜川敬老館・浜町敬老館・勝どき敬老館	アクティオ（株）	85点	A＋	適正
--------------------	----------	-----	----	----

評価の詳細については「福祉施設における指定管理者の評価表」（別紙２）のとおり。

「マイホーム新川」及び「マイホームはるみ」については、「マイホームはるみ」で事故が発生したことから、別途「社会福祉法人賛育会指定管理業務安全対策委員会」を設置し、当該指定管理者の危機管理体制・安全対策を検証した上で、後日改めて指定管理者評価委員会を開催し評価する。

6 評価結果の公開・活用

評価結果については区のホームページで公開するとともに、各施設の指定管理者に通知し、改善する必要があるものについては今後の運営に反映するよう求める。

評価項目・評価基準

1 評価項目

分 類	評 価 項 目
1 サービスの提供	①目的に沿ったサービスの提供 ②サービス水準の確保 ③適正な人員配置 ④職員の資質の向上 ⑤安全対策
2 事業運営	①事業計画に沿った運営 ②コンプライアンス ③個人情報保護の管理等 ④危機管理体制 ⑤経費低減の取組 ⑥適切な収支 ⑦中央区環境マネジメントシステムの実行 ⑧地域福祉への貢献 ⑨施設・設備の管理状況
3 利用者の満足度	①意見の把握・反映への取組 ②利用者満足度 ③苦情対応 ④利用者への情報提供 ⑤利用者への対応 ⑥施設・設備の管理状況

2 評価基準

(1) 評価項目の評価点

各評価項目の評価点は以下のとおり「5段階評価」とする。

5：特に優れている

4：優れている

3：適切である

2：努力が必要である

1：改善すべき点がある

(2) 評価ランク（総合評価）

各評価項目の評価点の合計得点に基づき次の5つのランクで表す。

合 計 得 点	評価ランク	ランクの意味
80点以上	A+	非常に優れている
70点以上80点未満	A	優れている
60点以上70点未満	B	適切である
50点以上60点未満	C	おおむね妥当である
50点未満	D	問題あり、改善を要する

福祉施設における指定管理者の評価表

①八丁堀保育園

1 概要

施設名	中央区立八丁堀保育園
所在地	中央区八丁堀4-5-10
施設長	野津 浩子
運営主体	株式会社ベネッセスタイルケア
定員及び利用者数	定員:79人 利用者数:77人(H25.3.1現在)
理念・方針	「よりよく生きる力」の基礎を育てる いきいきと健やかに毎日を過ごし、自信と意欲を持って、未来を生きる子どもを育てます。
指定管理者の指定日	平成16年8月1日より指定管理者

2 所管課評価結果

評価項目及び評価のポイント				配点	得点
1 サービスの提供				25	23
	①	目的に沿ったサービス提供	関係法令や保育所保育指針を遵守し、乳児及び幼児一人ひとりの発達の状況に応じた細かな保育が行われている。指定管理者として区との協定書どおりの運営が行われ、サービスの向上・経費の削減にも取り組んでいる。区立園として地域貢献にも取り組んでいる。以上の状況から前年度同様5点とした。	5	5
	②	サービス水準の確保	保育実践や保健衛生など様々な研修を実施することで保育の質を維持している。園児ごとの個別計画や指導計画を作成し、個々の園児に対する保育水準の維持に取り組んでいる。職員ごとのサービス水準のばらつきをなくすために、職員の情報共有の場として職員会議を開催している。以上の状況から前年度同様4点とした。	5	4
	③	適正な人員配置	認可基準を満たす人員配置を行っており、更には健康管理等を万全にするため看護師や栄養士を配置している。職員のローテーション勤務による時間的な保育ニーズへの対応など柔軟な人員配置を実施している。年度途中の退職者に対しては代替職員の早期配置を行っている。以上の状況から前年度同様4点とした。	5	4
	④	職員の資質の向上	保育の専門性を高める研修や職層別の研修、法人内の交流研修など職員の育成機会が整備されている。職員個別の育成計画により職員個別の研修ニーズを把握し、職員ごと必要に応じた研修を受講させている。法人内において保育ニーズの変化に応じて研修内容を見直している。以上の状況から前年度同様5点とした。	5	5
	⑤	安全対策	園内の安全管理について、リスクマネジメント委員会を設置し職員が点検・検討する機会を設けてそれを実践している。園外保育・アレルギー等必要なマニュアルが整備されている。遊具など安全に配慮した物品購入に努めている。平成24年度からは、法人本体が保育園で起こり得る事故の調査・分析を行い安全対策の充実に取り組んでいることから、前年度より1点加点して5点とした。	5	5

2 事業運営				45	37
	①	事業計画に沿った運営	単年度事業計画に必要な事項が網羅され、それをもとに綿密な個別の計画(育児指導、行事計画等)が作成され実践している。その単年度事業計画や個別の計画についてPDCAサイクルにより評価・見直しを行っている。また中長期的な計画等により保育理念を達成するための将来的なビジョンが明確になっており、職員会議や園長面接等により職員がそれを認識している。以上の状況から、前年度同様5点とした。	5	5
	②	コンプライアンス	コンプライアンスに関する指針を作成するとともに、職員に周知・指導する機会を設けコンプライアンスが遵守されている。またインターネットの普及等社会的変化に伴いコンプライアンスを見直し、改善を図って周知・指導している。以上の状況から、前年度同様4点とした。	5	4
	③	個人情報保護の管理等	書類の鍵付きキャビネットへの保管及びパソコンのパスワード設定など個人情報を適切に管理するとともに、各職員に対して個人情報保護の啓発を行っている。また写真撮影などは保護者から確認を取ったうえで行っている。以上の状況から、前年度同様4点とした。	5	4
	④	危機管理体制	防災訓練等を実施し伝言ダイヤルを活用するなど非常時に備えた取組がなされている。警察・消防との連携も図られており、定期的に非常時の対応を確認する取組がなされている。以上の状況から、前年度同様4点とした。	5	4

⑤	経費低減の取組	人件費については、職員のローテーション勤務など保育ニーズに合わせた人員配置により、効率的に執行している。運営費削減の取組として、在庫の管理徹底によるムダの削減や法人内における物品の一括購入を行っている。平成24年度は、法人内に物流センターを設置し更なる物品購入費の減に取り組んでいることから、前年度より1点加点して5点とした。	5	5
⑥	適切な収支	指定管理料の精算における実績報告及び法人が実施する監査法人による監査の結果、運営に係る費用は大きな問題もなく適切に管理されている。以上の状況から、前年度同様4点とした。	5	4
⑦	中央区環境マネジメントシステムの実行	こまめな消灯や換気による省エネに取り組んでいる。在庫管理の徹底によるごみの削減など環境負荷の低減に取り組んでいる。それらの取組を職員全体で行うよう周知しているところであるが、具体的に数値的目標を設定しそれに対する結果を検証するなど、更なる環境保全への取組が求められることから、前年度同様3点とした。	5	3
⑧	地域福祉への貢献	近隣の盆踊りや運動会に参加するなど地域との交流を図っている。「離乳食」「ベビーマッサージ」の講座により地域の子育て世帯を支援している。以上の状況から前年度同様4点とした。	5	4
⑨	施設・設備の管理状況	衛生に配慮し毎日掃除を実施している。日常点検により備品等の劣化・故障が発生した場合は速やかに区に報告している。安全に配慮した備品等の配置を行っている。以上の状況から今年度は4点とした。	5	4

3 利用者の満足度			30	25
①	意見の把握・反映への取組	顧客満足度調査(以下、「CS調査」という。)では「意見の把握・反映への取組」に関する複数の設問項目について92.6%が肯定的な意見である。園では、CS調査、行事後のアンケート、個人面談等により保護者の意見を多角的に収集し、改善に取り組んでいる。以上の状況から前年度と同様5点とした。	5	5
②	利用者満足度	CS調査では「総合的な満足度」の設問で98.1%が「満足」と回答している。ただし、「職員の異動に関すること」等更なる向上を望む意見があるため、前年度と同様4点とした。	5	4
③	苦情対応	CS調査では「苦情対応」に関する複数の設問項目について93.3%が肯定的な意見である。苦情対応については、本部で法務・コンプライアンス部などとも連携し、情報を集約・分析したうえで園にフィードバックする体制がとられており、利用者の満足度の向上につなげている。以上の状況から前年度と同様4点とした。	5	4
④	利用者への情報提供	保育園全体の活動については、園だより、クラスだより、掲示板等により情報提供している。個別の園児の状況については、日常の保護者との対話により情報提供に努めている。平成24年度は、日々の保育に関する情報提供について改善された面がみられるため、前年度から1点加点して4点とした。	5	4
⑤	利用者への対応	CS調査では「利用者への対応」に関する複数の設問項目について97.2%が肯定的な意見である。また自由意見からも、利用者に対して誠実に対応している様子が伺えるが一部意見・要望があることから今年度は4点とした。	5	4
⑥	施設・設備の管理状況	保育園という特性上、衛生面・安全面には特に配慮して管理しており、保護者から施設・備品等に関する指摘・要望はないため、今年度は4点とした。	5	4

合計得点	85(83)	評価ランク	A+ (A+)
------	--------	-------	---------

※()の記載は前年の評価

3 財務評価結果

損益計算書から見える経営成績の推移は、合併による影響から、売上高は当期25年3月期は対前年で、30%近く増加し72,902百万円の達成である。当期純利益も、順調に増加し、当期においては、対前年37.2%アップの3,065百万円の結果を残している。収益力が上がっている。

貸借対照表から見える財政状態の推移は、資産、負債、純資産ともに合併の影響もあり、増加し、業容は拡大している。資産についての当期の特徴は、被合併会社からの引継ぎ資産であるところのリース資産の増加が大きく、9,845百万円増、また現金預金の増加4,373百万円等があった。

負債については、同様に合併等の影響により、リース債務が9,914百万円、受入入居保証金5,992百万円の増加等があった。当社は金融機関等からの借入金はゼロであるが、介護入居者から保証金を無利子で長期預かり、これを設備投資等に回して、事業の拡大を図っていると考えられる。

法人の財務基盤の安定性は、合併によるリース資産等の計上により分母が膨らんだ結果、当期の純資産比率は、若干の落ち込みがあるもの、それでも、29%の比較的高い水準を保っている。

投資と資金調達のバランスを見る固定長期適合率は、当期73.1%と余裕のある、調達運用を示す投資状況を示しており、健全である。短期的な財務内容の安全性を示す流動比率は、298%と高いことから、安全であると考えられる。

指定管理事業の実績報告書から見ても安定的に経営されており、指定管理者として相応しいといえる。

4 評価委員会評価 ☒適正 ☐不適

<評価委員の意見>

- ・保育園活動の園だより、クラスだより、掲示板等による情報提供は保護者等に周知させる努力がみられた。
- ・地域への保育園活動のPRがもっとあればと思った。例えばインターネットなどの情報提供があってもと思う。地域の子育て支援の取組に、もう一つ踏み込んだものがあればと思った。
- ・適正と考えている。職員の意識が高いこと、適正な人員配置、協働体制がしっかりと機能していることなどにより、良質なサービスが提供できると思料される。管理体制(事業運営)についても概ね良好と考えている。利用者の満足度についても良好と考えているが、現状に甘んじることなく、更に満足度をあげるべく改善の努力をすることを大いに期待している。

②堀留町保育園

1 概要

施設名	堀留町保育園
所在地	中央区日本橋堀留町1-1-1
施設長	高橋 伸子
運営主体	株式会社ベネッセスタイルケア
定員及び利用者数	定員:72人 利用者数:63人(H25.3.1現在)
理念・方針	「よりよく生きる力」の基礎を育てる いきいきと健やかに毎日を過ごし、自信と意欲を持って、未来を生きる子どもを育てます。
指定管理者の指定日	平成23年1月1日より指定管理者

2 所管課評価結果

評価項目及び評価のポイント				配点	得点
1 サービスの提供				25	23
	①	目的に沿ったサービス提供	関係法令や保育所保育指針を遵守し、乳児及び幼児一人ひとりの発達の状況に応じた細かな保育が行われている。指定管理者として区との協定書どおりの運営が行われ、サービスの向上・経費の削減にも取り組んでいる。区立園として地域貢献にも取り組んでいる。以上の状況から前年度同様5点とした。	5	5
	②	サービス水準の確保	保育実践や保健衛生など様々な研修を実施することで保育の質を維持している。園児ごとの個別計画や指導計画を作成し、個々の園児に対する保育水準の維持に取り組んでいる。職員ごとのサービス水準のばらつきをなくすために、職員の情報共有の場として職員会議を開催している。以上の状況から前年度同様4点とした。	5	4
	③	適正な人員配置	認可基準を満たす人員配置を行っており、更には健康管理等を万全にするため看護師や栄養士を配置している。職員のローテーション勤務による時間的な保育ニーズへの対応など柔軟な人員配置を実施している。年度途中の退職者に対しては代替職員の早期配置を行っている。以上の状況から前年度同様4点とした。	5	4
	④	職員の資質の向上	保育の専門性を高める研修や職層別の研修、法人内の交流研修など職員の育成機会が整備されている。職員個別の育成計画により職員個別の研修ニーズを把握し、職員ごと必要に応じた研修を受講させている。法人内において保育ニーズの変化に応じて研修内容を見直している。以上の状況から前年度同様5点とした。	5	5
	⑤	安全対策	園内の安全管理について、リスクマネジメント委員会を設置し職員が点検・検討する機会を設けてそれを実践している。園外保育・アレルギー等必要なマニュアルが整備されている。遊具など安全に配慮した物品購入に努めている。平成24年度からは、法人本体が保育園で起こり得る事故の調査・分析を行い安全対策の充実に取り組んでいることから、前年度より1点加点して5点とした。	5	5

2 事業運営				45	37
	①	事業計画に沿った運営	単年度事業計画に必要な事項が網羅され、それをもとに綿密な個別の計画(育児指導、行事計画等)が作成され実践している。その単年度事業計画や個別の計画についてPDCAサイクルにより評価・見直しを行っている。また中長期的な計画等により保育理念を達成するための将来的なビジョンが明確になっており、職員会議や園長面接等により職員がそれを認識している。以上の状況から、前年度同様5点とした。	5	5
	②	コンプライアンス	コンプライアンスに関する指針を作成するとともに、職員に周知・指導する機会を設けコンプライアンスが遵守されている。またインターネットの普及等社会的変化に伴いコンプライアンスを見直し、改善を図って周知・指導している。以上の状況から、前年度同様4点とした。	5	4
	③	個人情報保護の管理等	書類の鍵付きキャビネットへの保管及びパソコンのパスワード設定など個人情報を適切に管理するとともに、各職員に対して個人情報保護の啓発を行っている。また写真撮影などは保護者から確認を取ったうえで行っている。以上の状況から、前年度同様4点とした。	5	4
	④	危機管理体制	防災訓練等を実施し伝言ダイヤルを活用するなど非常時に備えた取組がなされている。警察・消防との連携も図られており、定期的に非常時の対応を確認する取組がなされている。以上の状況から、前年度同様4点とした。	5	4

⑤	経費低減の取組	人件費については、職員のローテーション勤務など保育ニーズに合わせた人員配置により、効率的に執行している。運営費削減の取組として、在庫の管理徹底によるムダの削減や法人内における物品の一括購入を行っている。平成24年度は、法人内に物流センターを設置し更なる物品購入費の減に取り組んでいることから、前年度より1点加点して5点とした。	5	5
⑥	適切な収支	指定管理料の精算における実績報告及び法人が実施する監査法人による監査の結果、運営に係る費用は大きな問題もなく適切に管理されている。以上の状況から、前年度同様4点とした。	5	4
⑦	中央区環境マネジメントシステムの実行	こまめな消灯や換気による省エネに取り組んでいる。在庫管理の徹底によるごみの削減など環境負荷の低減に取り組んでいる。それらの取組を職員全体で行うよう周知しているところであるが、具体的に数値的目標を設定しそれに対する結果を検証するなど、更なる環境保全への取組が求められることから、前年度同様3点とした。	5	3
⑧	地域福祉への貢献	高齢者在宅サービスセンターや児童館と連携するなど、地域との交流を図っている。平成24年からは地域の子育て世帯支援として、親同士が交流でき、かつ、保育士に気軽に相談できる「保育園で遊ぼう」を月1回開催していることから、前年度より1点加点して4点とした。	5	4
⑨	施設・設備の管理状況	衛生に配慮し毎日掃除を実施している。日常点検により備品等の劣化・故障が発生した場合は速やかに区に報告している。安全に配慮した備品等の配置を行っている。以上の状況から今年度は4点とした。	5	4

3 利用者の満足度			30	24
①	意見の把握・反映への取組	第三者評価保護者アンケートでは「要望や不満はきちんと対応されているか」の設問で76.9%が「対応されている」と回答（「どちらともいえない」との意見が23.1%）しており一定の評価を得ている。第三者評価保護者アンケート、行事後のアンケート、個人面談等により保護者の意見を多角的に収集し、改善に取り組んでいるものの、アンケート結果が悪化（前年度のCS調査では93.5%が肯定的な意見）したことを踏まえ、今年度は前年度から1点減点し4点とした。	5	4
②	利用者満足度	第三者評価保護者アンケートで「総合的な満足度」の設問で93.3%が「満足」と回答している。ただし、「職員間の連携や情報共有に関すること」等更なる向上を望む意見があるため、前年度と同様4点とした。	5	4
③	苦情対応	第三者評価保護者アンケートでは「苦情対応」に関する複数の設問項目について72.2%が肯定的な意見（「どちらともいえない」との意見が22.7%）であり一定の評価を得ている。苦情対応については、本部で法務・コンプライアンス部などとも連携し、情報を集約・分析したうえで園にフィードバックする体制がとられており、利用者の満足度の向上につなげている。以上の状況から前年度と同様4点とした。	5	4
④	利用者への情報提供	保育園全体の活動については、園だより、クラスだより、掲示板等により情報提供している。また、個別の園児の状況については、日常の保護者との対話により情報提供に努めている。以上の状況から前年度と同様4点とした。	5	4
⑤	利用者への対応	第三者評価保護者アンケートでは「利用者への対応」に関する複数の設問項目について95.0%が肯定的な意見（「どちらともいえない」との意見が4.4%）であり高い評価を得ている。また自由意見からも、利用者に対して誠実に対応している様子が伺えるが一部意見・要望があることから今年度は4点とした。	5	4
⑥	施設・設備の管理状況	保育園という特性上、衛生面・安全面には特に配慮して管理しており、保護者から施設・備品等に関する指摘・要望はないため、今年度は4点とした。	5	4

合計得点	84(83)	評価ランク	A+（A+）
------	--------	-------	--------

※()の記載は前年の評価

3 財務評価結果

損益計算書から見える経営成績の推移は、合併による影響から、売上高は当期25年3月期は対前年で、30%近く増加し72,902百万円の達成である。当期純利益も、順調に増加し、当期においては、対前年37.2%アップの3,065百万円の結果を残している。収益力が上がっている。

貸借対照表から見える財政状態の推移は、資産、負債、純資産ともに合併の影響もあり、増加し、業容は拡大している。資産についての当期の特徴は、被合併会社からの引継ぎ資産であるところのリース資産の増加が大きく、9,845百万円増、また現金預金の増加4,373百万円等があった。

負債については、同様に合併等の影響により、リース債務が9,914百万円、受入入居保証金5,992百万円の増加等があった。当社は金融機関等からの借入金はゼロであるが、介護入居者から保証金を無利子で長期預かり、これを設備投資等に回して、事業の拡大を図っていると考えられる。

法人の財務基盤の安定性は、合併によるリース資産等の計上により分母が膨らんだ結果、当期の純資産比率は、若干の落込みがあるもの、それでも、29%の比較的高い水準を保っている。

投資と資金調達のバランスを見る固定長期適合率は、当期73.1%と余裕のある、調達運用を示す投資状況を示しており、健全である。短期的な財務内容の安全性を示す流動比率は、298%と高いことから、安全であると考えられる。

指定管理事業の実績報告書から見ても安定的に経営されており、指定管理者として相応しいといえる。

4 評価委員会評価 ☒適正 ☐不適

<評価委員の意見>

- ・月1回、親同士の交流や保育士に気軽に相談できる「保育園で遊ぼう」の開催はとても良い。
- ・「保育園で遊ぼう」は、とてもいい取組だと思う。できれば、月に複数回の開催があればと思う。
- ・適正と考えている。理由は同じ運営主体が管理者である八丁堀保育園と同様。企業がスケールメリットを活かしてシステムティックで良好なサービスを提供している好事例と考えている。ただし、規模が大きい故、硬直的な運営にならないよう、行政等のこまめなチェックを継続することが必要である(この点については八丁堀保育園についても同様)。

③十思保育園

1 概要

施設名	十思保育園
所在地	中央区日本橋小伝馬町5-1
施設長	染谷 真希
運営主体	社会福祉法人清香会
定員及び利用者数	定員:85人 利用者数:75人(H25.3.1現在)
理念・方針	無限の可能性を信じ、共に育ちあう個と公の集団 自発的意志を大切にし、個性を育てながら自立への道を歩めるよう援助する。
指定管理者の指定日	平成21年8月1日より指定管理者

2 所管課評価結果

評価項目及び評価のポイント				配点	得点
1 サービスの提供				25	21
	①	目的に沿ったサービス提供	関係法令や保育所保育指針を遵守し、乳児及び幼児一人ひとりの発達の状況に応じたきめ細かな保育が行われている。指定管理者として区との協定書どおりの運営が行われ、サービスの向上・経費の削減にも取り組んでいる。区立園として地域貢献にも取り組んでいる。以上の状況から前年度同様5点とした。	5	5
	②	サービス水準の確保	保育実践や保健衛生など様々な研修を実施することで保育の質を維持している。園児ごとの個別計画や指導計画を作成し、個々の園児に対する保育水準の維持に取り組んでいる。職員ごとのサービス水準のばらつきをなくすために、職員の情報共有の場として職員会議を開催している。平成24年度は、前年度において上記の取組に対する職員の理解・実践が不十分なところが改善されたため、前年度より1点加点点して4点とした。	5	4
	③	適正な人員配置	認可基準を満たす人員配置を行っており、更には健康管理等を万全にするため看護師や栄養士を配置している。職員のローテーション勤務による時間的な保育ニーズへの対応など柔軟な人員配置を実施している。平成24年度は、年度途中の退職者に対して代替職員の配置が早期になされたため、前年度より1点加点点して4点とした。	5	4
	④	職員の資質の向上	保育の専門性を高める研修や職層別の研修など職員の育成機会が整備されている。職員個別の育成計画により職員個別の研修ニーズを把握し、職員ごと必要に応じた研修を受講させている。以上の状況から前年度同様4点とした。	5	4
	⑤	安全対策	園内の安全管理について、チェックリストにより職員が点検・検討する機会を設けてそれを実践している。園外保育・アレルギー等必要なマニュアルが整備されている。遊具など安全に配慮した物品購入に努めている。平成24年度は、「ヒヤリハット箇所一覧」の作成を行い更なる危険箇所の点検・確認の徹底によるケガの防止に努めていることから、前年度より1点加点点して4点とした。	5	4

2 事業運営				45	35
	①	事業計画に沿った運営	単年度事業計画に必要事項が網羅され、それをもとに綿密な個別の計画(育児指導、行事計画等)が作成され実践している。その単年度事業計画や個別の計画についてPDCAサイクルにより評価・見直しを行っている。また中長期的な計画等により保育理念を達成するための将来的なビジョンが明確になっている。以上の状況から、前年度同様4点とした。	5	4
	②	コンプライアンス	コンプライアンスに関する指針を作成するとともに、職員に周知・指導する機会を設けコンプライアンスが遵守されている。またインターネットの普及等社会的変化に伴いコンプライアンスを見直し、改善を図って周知・指導している。以上の状況から、前年度同様4点とした。	5	4
	③	個人情報保護の管理等	書類の鍵付きキャビネットへの保管及びパソコンのパスワード設定など個人情報を適切に管理するとともに、各職員に対して個人情報保護の啓発を行っている。また写真撮影などは保護者から確認を取ったうえでやっている。以上の状況から、前年度同様4点とした。	5	4
	④	危機管理体制	防災訓練等を実施し伝言ダイヤルを活用するなど非常時に備えた取組がなされている。警察・消防との連携も図られており、定期的に非常時の対応を確認する取組がなされている。以上の状況から、前年度同様4点とした。	5	4

⑤	経費低減の取組	人件費については、職員のローテーション勤務など保育ニーズに合わせた人員配置により、効率的に執行している。運営費削減の取組として、在庫や食材発注の管理徹底によるムダの削減や手作りおもちゃの作成などを行っている。以上の状況から、前年度同様4点とした。	5	4
⑥	適切な収支	指定管理料の精算における実績報告及び法人が実施する監査法人による監査の結果、運営に係る費用は大きな問題もなく適切に管理されている。以上の状況から、前年度同様4点とした。	5	4
⑦	中央区環境マネジメントシステムの実行	こまめな消灯や換気による省エネに取り組んでいる。在庫管理の徹底によるごみの削減など環境負荷の低減に取り組んでいる。それらの取組を職員全体で行うよう周知しているところであるが、具体的に数値的目標を設定しそれに対する結果を検証するなど、更なる環境保全への取組が求められることから、前年度同様3点とした。	5	3
⑧	地域福祉への貢献	夏祭りに卒園児や地域住民を招待している。また近隣の高齢者クラブと連携するなど、地域との交流を図っている。保育を体験してもらう「ふれあい体験保育」の実施により地域の子育て世帯を支援している。平成24年度は、週1回の園庭開放を開始し、保育所施設の機能の還元にも取り組んでいることから、前年度より1点加点して4点とした。	5	4
⑨	施設・設備の管理状況	衛生に配慮し毎日掃除を実施している。日常点検により備品等の劣化・故障が発生した場合は速やかに区に報告している。安全に配慮した備品等の配置を行っている。以上の状況から今年度は4点とした。	5	4

3 利用者の満足度			30	24
①	意見の把握・反映への取組	第三者評価保護者アンケートでは「要望や不満はきちんと対応されているか」の設問で75.0%が「対応されている」と回答（「どちらともいえない」との回答が20.8%）しており一定の評価を得ている。第三者評価保護者アンケート、行事後のアンケート、個人面談等により保護者の意見を多角的に収集し、改善に取り組んでいる。以上の状況から前年度と同様4点とした。	5	4
②	利用者満足度	第三者評価保護者アンケートで「総合的な満足度」の設問で96.3%が「満足」と回答している。ただし、「職員間の連携や情報共有に関すること」等更なる向上を望む意見があるため、前年度と同様4点とした。	5	4
③	苦情対応	第三者評価保護者アンケートでは「苦情対応」に関する複数の設問項目について75.5%が肯定的な意見（「どちらともいえない」との意見が20.4%）であり一定の評価を得ている。保護者からの苦情について、毎月発行する園だよりに掲載して園としての対応を他の保護者にも周知している。平成24年度は、前年度の「職員体制」に関する苦情がなくなったため、前年度から1点加点して4点とした。	5	4
④	利用者への情報提供	保育園全体の活動については、園だより、クラスだより、掲示板等により情報提供している。個別の園児の状況については、日常の保護者との対話により情報提供に努めている。平成24年度は、日々の保育に関する情報提供について改善された面がみられるため、前年度から1点加点して4点とした。	5	4
⑤	利用者への対応	第三者評価保護者アンケートでは「利用者への対応」に関する複数の設問項目について86.6%が肯定的な意見（「どちらともいえない」との意見が10.5%）であり高い評価を得ている。また自由意見からも、利用者に対して誠実に対応している様子が伺えるが一部意見・要望があることから今年度は4点とした。	5	4
⑥	施設・設備の管理状況	保育園という特性上、衛生面・安全面には特に配慮して管理しており、保護者から施設・備品等に関する指摘・要望はないため、今年度は4点とした。	5	4

合計得点	80(73)	評価ランク	A+（A）
------	--------	-------	-------

※()の記載は前年の評価

3 財務評価結果

保育事業専門の当法人は新規園の開設により大幅に事業拡大をはかり、事業収入を伸ばしている。当期25年3月期についても事業活動収入は863,750千円と対前年で30%アップの成長を達成している。事業活動の成果を示す事業活動収支差額は、110,372千円で、対前年で17%増加であり、事業活動収支差額率は12.8%と事業の高い効率性を示している。

貸借対照表から見える財政状態の推移は、当25年3月期末の資産は1,472百万円であり、対前年でみると、むしろ131百万円減少している。これは、前期に開設準備中の新規園にかかわる未収補助金や建設仮勘定、未払金等が、当期に入り開設により確定し決済されたことが主因である。一方完成により、基本財産の建物増加があり、保育所施設設備積立預金の増加もみられる。負債についても対前年で222百万円減少の275百万円の残高である。この減少についても同様に新規園開設に伴う工事未払金が決済されたことの影響大である。純資産については、1,197百万円と対前年より91百万円の増加がみられる。

法人の財務基盤の安定性については、純資産比率は、約81.3%であり、大幅な純資産比率の上昇がみられる。投資と資金のバランスを示す固定長期適合率は、当期は、89.4%であり改善している。設備投資が自己資本と固定負債の範囲内で行われていることを示している。借入金比率は新規園の開設の為の借入金も一部返済され減少している。長期的な財務内容は安定し健全である。

短期の財務内容の健全性は、流動比率が336%と前期に比して格段に上昇している。また、現金預金に関する指標も健全性を示している。

指定管理事業についても、効率よく、予算の範囲内での執行が行われており、指定管理者として相応しいといえる。

4 評価委員会評価 ☒適正 ☐不適

<評価委員の意見>

- ・「園庭開放」が、今後さらに地域の活性化につながる可能性を感じた。
- ・様々な努力を重ねている点は評価できる。
- ・代替職員は子どもの園生活に影響するので、定着に工夫されたい。
- ・適正と考えている。目的に沿ったサービス提供を徹底しているものと考えられる。運営体制も適正と考えられる。こうしたことにより、利用者の満足度も概ね良好な結果になったものと推測される。財務内容も大変良好であり、安定感も高い。一部意見や要望、更なる向上を求める意見もあるので、今後の改善に期待している。

④知的障害者生活支援施設「レインボーハウス明石」

1 概要

施設名	知的障害者生活支援施設「レインボーハウス明石」
所在地	中央区明石町1-6
施設長	林 信秀
運営主体	社会福祉法人 東京都知的障害者育成会
定員及び利用者数	入所定員 30人 利用者数 30人(H25.3.31現在)
理念・方針	「私たちは、親と共に、子のそれぞれの自立に向かう運動体としての活動を進めてまいります。」 「私たちは、一人ひとりに合わせた生活の場、働く場を行政・家族と力を合わせて作り、支援します。」
指定管理者の指定日	平成16年7月1日より指定管理者

2 所管課評価結果

評価項目及び評価のポイント				配点	得点
1 サービスの提供				25	21
	①	目的に沿ったサービス提供	事業ごとに年度目標を策定し、それに基づいたサービスの提供を行っている。日々のサービスの点検は、毎月行うユニットリーダー会議や作業別担当者会議で細部まで話し合い、確認・是正を行っている。申し送りについても、職員のローテーションを考え、長期間継続的に伝えており、引継ぎもれを防いでいる。引き続き成果が挙げられていることから、前年度と同様の5とした。	5	5
	②	サービス水準の確保	各種マニュアルの再構築・使用記録様式の見直しを行い、平成24年11月にISO9001を取得した。現在も、より良いマニュアルを目指し、更新している。また、全体会議やユニット会議で業務の標準化を図り、PDCAサイクルを確実に回す体制を整え、利用者一人ひとりに合わせた支援などのサービスの質も高めたので、前年度より1点加点して4点とした。	5	4
	③	適正な人員配置	ISOを取得し、記録様式を変更したことで、しっかりとした利用者の記録がある。記録がしっかり整っていることで、法人内の人事異動や新規採用などがあっても、利用者へのサービスが低下せず、高い水準でサービスの維持が出来ている。また、看護師も利用者一人ひとりに合わせたきめ細やかな対応をし、インフルエンザの発生もゼロだったことから、前年度より1点加点して4点とした。	5	4
	④	職員の資質の向上	年度ごとに職員の個別研修計画を作成し、法人・外部・施設内研修に取り組んでいる。施設内研修ではグループワークと新任職員のOJTを重視して取り組み、「廊下周回ウォーキング」などのイベント提案があるように、職員間に「やらされるよりやってみる」という意識が定着し、やる気が伺えることから、前年度と同様4点とした。	5	4
	⑤	安全対策	第三者評価から伺えるように、勤務ごとに業務マニュアルと利用者支援内容を作成し、日常の事故防止に繋げている。また、入浴時・外出時等の場面ごとのマニュアルも作成し、的確に実行しているなど、引き続き質の高い安全対策が図られていることから、前年度と同様4点とした。	5	4

2 事業運営				45	36
	①	事業計画に沿った運営	年度ごとに事業計画を策定し、毎月行う各事業での会議において事業進行の確認を行っている。また、各事業の年度目標は半期でモニタリングを実施し、振り返りを実行していることから、次へのステップアップに繋がっている。このことから、前年度と同様4点とした。	5	4
	②	コンプライアンス	第三者評価の結果から、リーダー・サブリーダーからなるISO委員会を立ち上げ、「支援体制の構築と活動内容の充実」等6項目の方針を掲げ、PDCAサイクルをしっかり回す体制が整い、情報開示や地域社会に対し、透明性の高い組織となっている。このことから、前年度と同様4点とした。	5	4
	③	個人情報保護の管理等	中央区個人情報の保護に関する条例を遵守するとともに、施設内で策定した、個人情報保護規定、情報公開・開示規程を正しく運用していることから、前年度と同様4点とした。	5	4
	④	危機管理体制	緊急時マニュアルを作成し職員へ周知している。避難訓練は地震時・夜間想定等を毎月実施している。非常食は3日分備蓄し、災害時対応事業継続計画も策定していることから、前年度と同様4点とした。	5	4

⑤	経費低減の取組	給与の高い年配職員の異動・退職にあたっては、若手職員の異動（転入）や新任職員の採用を計画的に行うことで適切な職員年齢構成を維持し、同時に、人件費の高騰抑制に努めている。また、光熱水費削減へ、施設全体で取り組み、使用していない部屋の消灯や事務室の冷暖房費の抑制など個々の職員が意識して経費削減に努めていることから、前年度と同様4点とした。	5	4
⑥	適切な収支	法人監査の評価どおり、貸借対照表、事業活動収支計画書及び資金収支計算書は、法令及び定款に従い事業活動及び資金収支の状況を正しく示していることから、前年度と同様の4点とした。	5	4
⑦	中央区環境マネジメントシステムの実行	中央区環境マネジメントシステムに基づき、利用者個々の心身状況にも十分に配慮しながら、不要な電源のOFF、照明器具の間引き、適切な空調温度の設定等に職員全体で取り組んでいる。このことから、前年度と比較して同様4点とした。	5	4
⑧	地域福祉への貢献	ボランティアや見学者も積極的に受け入れ、入所・通所・就労など複合施設だからできる多様なメニューが整っている。中でも、喫茶アラジンが評判も良く地域住民の憩いの場、交流の場となっており、障害者理解と地域とのコミュニケーションを図られる場として、地域福祉向上に繋がっている。このことから、前年度と同様4点とした。	5	4
⑨	施設・設備の管理状況	利用者に怪我等が無いよう、日常より職員全体で、廊下等通路に障害物がないか、施設設備に不備がないかを確認して対処している。また、ISO取得にあたり、設備使用に関してのマニュアルを見直し、施設の適切な維持管理も行われている。施設内の整理・整頓・清潔さも常に保たれていることから、今年度は4点とした。	5	4

3 利用者の満足度			30	24
①	意見の把握・反映への取組	バスハイクや一泊旅行の行先、外出先の選定、食事メニュー等について、自治会・給食会議等で意見を汲み取り、反映させていることから、前年度と同様4点とした。	5	4
②	利用者満足度	第三者評価結果では、利用者の満足度は高く、「大変満足」が21人中9人(42.9%)、「満足」が10人(47.6%)、合わせて90.5%を数えていることから、前年度と同様4点とした。	5	4
③	苦情対応	苦情解決実施要綱に基づき、苦情解決責任者を設置し、早期に対応できる体制を構築している。オンブズマンが毎月来所し、個別相談も行っていることから、前年度と同様4点とした。	5	4
④	利用者への情報提供	第三者評価利用者アンケート結果から、個別支援計画についての説明も利用者に解り易いように説明し、様々な選択肢を提供しているとの高評価がある一方、個別目標や計画を作成する際に、要望等を聞かれているかの問いに無回答や「いいえ」があったことから、前年度を1点下回る3点とした。	5	3
⑤	利用者への対応	第三者評価利用者アンケート結果で「あなたの気持ちを大切にしてくれていると思いますか？」には100%の方が「はい」と答えており、適切な支援を行っていることから、今年度は評価を5点とした。	5	5
⑥	施設・設備の管理状況	第三者評価利用者アンケート結果、21人中17人の方が設備を安心して使えているとあるように、ISOのマニュアルに沿って安心・安全な管理を行っていることから、今年度は評価を4点とした。	5	4

合計得点	81(80)	評価ランク	A+ (A+)
------	--------	-------	---------

※()の記載は前年の評価

3 財務評価結果

首都圏中心に知的障害者援護施設等を運営する当法人の、障害福祉サービス事業収益を主な柱とするサービス活動収益は、安定しており、この3期については、100億円以上を続けて達成している。当期25年3月期では、新会計基準適用のもと、サービス活動収益は、10,423百万円の達成であった。本業の成果を示すサービス活動増減差額は黒字の4億円強の達成があったものの、人件費や事業費増加により、対前年では134百万円ほどの減額である。

当期の活動の成果を示す当期活動増減差額も、黒字の488百万円の達成ではあるが、対前年比では82.5%になっている。サービス活動収益に対する当期活動増減差額の比率は、4・7%である。業績の効率性は安定している。

資産は約289百万円の増加があり当期末では、8,513百万円である。補助金や事業収入に関する未収金、退職給付引当資産、現金預金の増加が目立っている。

負債は、未払金等の事業債務は、増加しているが、借入金の返済は進んでいる。負債については、220百万円対前年で減少している。当期末残高は2,504百万円である。

純資産については、対前年で510百万円の増加があり次期繰越活動収支差額、その他の積立金等が増加している。当期末残高は、6,009百万円である。

法人の長期的な財務基盤の安定性を示す指標である純資産比率は、安定して高い比率を保っており、25年3月期末では、70.6%であり改善している。設備と調達資金とのバランスを示す固定長期適合率も80.4%と改善し、安定している。借入金の返済もすすんでいることから、借入金に関する指標である、借入金比率は、8.8%と、当期初めて10%を下回る改善があった。長期的財務内容は、健全である。

短期的財務内容の指標である流動比率は200%と高く、現金預金関係の指標も改善しており、短期的財務内容は、健全である。

指定管理事業についても、効率よく予算の適正な執行が伺え、指定管理者として相応しいといえる。

4 評価委員会評価 ☒適正 ☐不適

＜評価委員の意見＞

- ・第三者評価利用者アンケート結果で「あなたの気持ちを大切にしてくれていると思いますか？」に100%の方が「はい」と答えているように、適切な支援を行っていることは良い。
- ・ボランティアの積極的な受け入れが、地域の障害者福祉の理解に大きく役立っていると思う。
- ・ISO9001取得するなど努力をしていることは評価できる。
- ・適正と考えている。スケールメリットを活かしてシステムティックに良質なサービスを提供している好事例と考えている。コンプライアンス体制も十分であることは評価できる。協働体制も十分に機能しており、こうしたことから利用者から良い評価を得ていると思料される。情報提供に改善すべき点があるが、今後十分に改善できるものと期待している。

⑤知的障害者グループホーム「フレンドハウス京橋」

1 概要

施設名	知的障害者グループホーム「フレンドハウス京橋」
所在地	中央区京橋2-6-7
施設長	牧野 隆行
運営主体	社会福祉法人 東京都知的障害者育成会
定員及び利用者数	定員6人 利用者数 6人(H25.3.31現在)
理念・方針	「私たちは、親と共に、子のそれぞれの自立に向かう運動体としての活動を進めてまいります。」 「住まいの提供と日常生活に必要な援護及び支援を行う。」
指定管理者の指定日	平成18年4月1日より指定管理者

2 所管課評価結果

評価項目及び評価のポイント				配点	得点
1 サービスの提供				25	16
	①	目的に沿ったサービス提供	半期ごとに個別支援計画書を作成して支援に的確に反映させている。しかし、計画書の作成過程では、利用者本人への意向確認は十分になされているが、保護者への説明や意見聴取は十分ではなく、今後、一層の工夫と努力が求められる。このため、前年度を2点下回る3点とした。	5	3
	②	サービス水準の確保	当該事業所のサービス管理責任者、担当ワーカーは施設を定期的に訪問し、事業運営を確認している。更には、利用者や世話人の状況に即した臨機応変な訪問や課題介入が必要であったが、この取組が不十分であった。このため、前年度を1点下回る3点とした。	5	3
	③	適正な人員配置	人員配置では、施設設置基準を上回る世話人・支援員を配置している。一方で、担当ワーカー・世話人・支援員相互の協働体制が不十分で、問題発生時の対応で後手に回る事例が見られた。このため、前年度を1点下回る3点とした。	5	3
	④	職員の資質の向上	世話人を対象とした法人主催の世話人就任時やその後の集合研修は計画的に実施されている。これに追加して、課題別や施設個々の事情に応じたOJTや他施設の体験研修等豊富な人材育成プログラムが求められるが、この取組が見られなかった。このため、前年度を1点下回る3点とした。	5	3
	⑤	安全対策	不審者対策では、玄関を電気錠・モニター開閉とし、世話人は細心の注意を払っている。日常でも、非常階段・ベランダ・浴室等の利用者使用に当たっても注視を怠らない。このため、評価は前年度と同様4点とした。	5	4

2 事業運営				45	34
	①	事業計画に沿った運営	法人は、独自の業務標準化のための手引書を整備して、各施設に事業計画に則した施設運営を義務付けている。結果、同施設は計画に則った運営を着実に実践し、当初計画の求める達成水準を満たしている。このため、評価は、前年度と同様4点とした。	5	4
	②	コンプライアンス	協定書・契約書、運営要綱等に沿った運営を心がけている。しかし、利用者や保護者へのコンプライアンスの説明において、不十分さや配慮不足が否めない場面もあり、今後、高い透明性に向けた更なる努力が必要である。このため、前年度を1点下回る3点とした。	5	3
	③	個人情報保護の管理等	法人の個人情報保護規程を遵守している。利用者情報を外部とやりとりする必要がある折には、利用者は元より必要に応じて保護者からの合意を適時・適切かつ確実に得るなど、慎重な情報管理行われている。このため、前年度と同様4点とした。	5	4
	④	危機管理体制	緊急連絡の掲示や定期的な避難訓練などの実施とともに、災害時の利用者の就労先からの帰宅方法についても事前に検討するなど日頃から備えに余念がない。一方で、区民施設と合築という特性に配慮した区民施設との合同避難訓練などがなされておらず、今後、一層の取組が求められる。このため、前年度を1点下回る3点とした。	5	3

⑤	経費低減の取組	利用者サービスの低下とならないよう配慮しつつ、光熱水費等において日常での無駄の削減に取り組んでいる。結果、毎年予算の範囲内での適正な執行がなされており、前年度と同様4点とした。	5	4
⑥	適切な収支	適切な収支となるよう、年に1回の法人内検査を実施し、事業活動収支計画書及び資金収支計算書は特段の指摘事項がないことから、評価は、前年度と同様4点とした。	5	4
⑦	中央区環境マネジメントシステムの実行	光熱水費は元より、紙類使用や調理作業でも無駄なエネルギー消費を控え、ゴミの分別にも鋭意取り組んでいる。このため、前年度と同様4点とした。	5	4
⑧	地域福祉への貢献	ここ数年来、世話人は町会に加入し、時には利用者也交えて祭りや清掃活動等の地域行事に積極的に参加している。これにより、地域での施設の認知度は高まり、利用者の社会参加も広がっている。このため、前年度と同様4点とした。	5	4
⑨	施設・設備の管理状況	専門業者による、点検を受けており、各部屋の鍵を交換し、統一管理を可能にするなど改善に努めている。また、世話人自身も施設設備の日常点検、補修を怠らない。このため、今年度は4点とした。	5	4

3 利用者の満足度			30	22
①	意見の把握・反映への取組	毎年、第三者評価を受審し、利用者意見を反映できるように取り組んでいることから、前年度と同様4点とした。	5	4
②	利用者満足度	第三者評価受審の結果、6人の利用者のうち1人の利用者が15項目の質問のうち5項目に答えていないものの、利用者全員では概ね「満足」との回答となっている。このため、前年度を1点下回る4点とした。	5	4
③	苦情対応	法人内に第三者委員を配置し、支援ワーカーによる定期訪問を行い苦情の対応に取り組むシステムを整えている。しかし、日常の状況把握と細かい要望等への対応には未だ不十分な点もあり、更なる体制強化が求められる。このため、前年度を1点下回る3点とした。	5	3
④	利用者への情報提供	施設内に掲示コーナーを設け、必要な情報を張り出しているが、利用者へ交えた保護者会を開いて情報提供や意見交換を行うなど双方向のコミュニケーション活性化への取組が不足している。このため、前年度を1点下回る3点とした。	5	3
⑤	利用者への対応	世話人は利用者との日々の会話や帰宅時の態度や表情から職場での問題を察知し、適時適切なアドバイスを心がけている。このため、第三者評価受審の結果、利用者からは大方満足の結果を得ていることから、今年度は4点とした。	5	4
⑥	施設・設備の管理状況	専門業者による、エレベーター保守、配水管の高圧洗浄など、定期的に点検を受けていることから、今年度は4点とした。	5	4

合計得点	72(80)	評価ランク	A(A+)
------	--------	-------	-------

※()の記載は前年の評価

3 財務評価結果

首都圏中心に知的障害者援護施設等を運営する当法人の、障害福祉サービス事業収益を主な柱とするサービス活動収益は、安定しており、この3期については、100億円以上を続けて達成している。当期25年3月期では、新会計基準適用のもと、サービス活動収益は、10,423百万円の達成であった。本業の成果を示すサービス活動増減差額は黒字の4億円強の達成があったものの、人件費や事業費増加により、対前年では134百万円ほどの減額である。

当期の活動の成果を示す当期活動増減差額も、黒字の488百万円の達成ではあるが、対前年比では82.5%になっている。サービス活動収益に対する当期活動増減差額の比率は、4.7%である。業績の効率性は安定している。

資産は約289百万円の増加があり当期末では、8,513百万円である。補助金や事業収入に関する未収金、退職給付引当資産、現金預金の増加が目立っている。

負債は、未払金等の事業債務は、増加しているが、借入金の返済は進んでいる。負債については、220百万円対前年で減少している。当期末残高は2,504百万円である。

純資産については、対前年で510百万円の増加があり次期繰越活動収支差額、その他の積立金等が増加している。当期末残高は、6,009百万円である。

法人の長期的な財務基盤の安定性を示す指標である純資産比率は、安定して高い比率を保っており、25年3月期末では、70.6%であり改善している。設備と調達資金とのバランスを示す固定長期適合率も80.4%と改善し、安定している。借入金の返済もすすんでいることから、借入金に関する指標である、借入金比率は、8.8%と、当期初めて10%を下回る改善があった。長期的財務内容は、健全である。

短期的財務内容の指標である流動比率は200%と高く、現金預金関係の指標も改善しており、短期的財務内容は、健全である。

指定管理事業についても、効率よく予算の適正な執行が伺え、指定管理者として相応しいといえる。

4 評価委員会評価 ☒適正 ☐不適

<評価委員の意見>

- ・問題発生時対応は担当ワーカー、世話人、支援員相互の協働体制を改善し後手に回らないような体制構築が必要だと思う。
- ・世話人さん、担当ワーカー、利用者、保護者の方々の、相互の情報共有がより良いグループホーム作りにつながることを願っている。
- ・適正と考えている。保護者との関係は難しい課題を抱えていると理解している。一方で、利用者の評価は概ね良好であることは大いに評価できる。人員体制が十分なのに協働体制に課題があるようだが、十分に改善できるものと期待をしている。
- ・家庭的な機能と自立支援を促す機能を備える施設であることを考慮し、スーパービジョン(指導・教育体制)の整備を期待したい。

⑥介護老人保健施設「リハポート明石」

1 概要

施設名	中央区立介護老人保健施設リハポート明石
所在地	東京都中央区明石町1番6号
施設長	根木 達雄
運営主体	公益社団法人中央区医師会
定員及び利用者数	定 員 入所：100人(短期入所20人を含む。)、通所リハ：30人 利用率 入所：74.7%(短期入所を含む。)、通所リハ：72.9%
理念・方針	医道を昂揚し、医学・医術の発達普及と公衆衛生の向上を図り、社会福祉の増進に寄与することを目的とし、昭和23年に設立した社団法人。
指定管理者の指定日	平成16年7月1日より指定管理者

2 所管課評価結果

評価項目及び評価のポイント				配点	得点
1 サービスの提供				25	22
	①	目的に沿ったサービス提供	介護を必要とする高齢者の自立を支援し、家庭への復帰を目指すために、医師による医学的管理の下、看護・介護サービスやリハビリテーションを行うという老人保健施設の目的に沿って、運営している。特に充実したリハビリ体制で、入所者や短期入所者に対する個別リハの提供等により在宅復帰をめざし取り組んでおり、前年度と同様5点とした。	5	5
	②	サービス水準の確保	全国平均(22.2%)を上回る在宅復帰率38%を維持している。さらに、個別リハの充実だけでなく、レクリエーション活動に工夫を凝らすことや、食事にも季節感を味わえるように取り組んでおり、これらのことから前年度と同様4点とした。	5	4
	③	適正な人員配置	理学療法士、作業療法士を各3人ずつ配置し、週6日リハビリを実施するとともに、医療処置を必要とする方も受け入れられるよう看護師も多く配置していることから前年度と同様4点とした。	5	4
	④	職員の資質の向上	施設内の委員会活動を活発に行い、発表会の開催等により、相互啓発、情報共有を図っている。また、施設で必要なスキルを収得させること等を目的として、外部の研修に職員を積極的に受講させている。このことから、前年度と同様4点とした。	5	4
	⑤	安全対策	インフルエンザやノロウイルス等による感染を予防するため、入所者、職員ともに予防接種の徹底や、手洗い・うがいの励行等を行った。また、事故防止マニュアルに基づき、小さなことも報告に上げ、職場ミーティング後会議録を回覧し情報を共有していることから前年度と同様5点とした。	5	5

2 事業運営				45	34
	①	事業計画に沿った運営	事業計画に則り安定した施設運営や事故件数の削減、感染症の再発防止が行われたが、延べ入所者数(221→214人)や新規利用者数(82→74人)は前年度に比べ微減したことから、利用者増の努力を期待し前年度と同様4点とした。	5	4
	②	コンプライアンス	法令遵守は施設運営の基本であり、職員一人ひとりが守って行動していくべきとの認識のもと、職員に対して採用時や定期的な研修等通して、指導を行っている。日常の中でも職員間で注意しあう体制が取られているので前年度と同様4点とした。	5	4
	③	個人情報保護の管理等	何気ない行動の中にも個人情報の漏えいのリスクが潜んでいることを常に自覚するよう職員教育を行っている。また、個人情報に関する書類はキャビネットに収納し、整理整頓が徹底されているので、前年度と同様4点とした。	5	4
	④	危機管理体制	防災訓練を年2回実施している。また、災害発生時に備え、事業継続に向けた取組も進めている。さらに、委員会活動などを通し、感染症予防に取り組んでいるので前年度と同様4点とした。	5	4

⑤	経費低減の取組	複数社から見積もりを取るなど、物品購入も精査して行われ、経費縮減に努めているので前年度と同様4点とした。	5	4
⑥	適切な収支	法人が実施する会計事務所による会計監査を毎月実施しており、運営負担金の精算における実績報告からも適正に管理されているが、入所率が低く、介護報酬がのびなかったことから、前年度と同様3点とした。	5	3
⑦	中央区環境マネジメントシステムの実行	冷暖房は人がいない場所には使用しないことや不要な箇所の照明を間引いたり、消灯するなどこまめに省エネルギーに取り組んだので前年度と同様4点とした。	5	4
⑧	地域福祉への貢献	実習生受入れや健康福祉まつりへの参加、地域住民との合同防災訓練などさまざまな場面で地域と関わりを持っている。施設内で行っている納涼祭では利用者の家族や多くのボランティアも参加し交流が図れていたが、地域の高齢者への支援や働きかけは行っていないため、前年度と同様3点とした。	5	3
⑨	施設・設備の管理状況	設立から10年経過しているが、設備や物品が適切に管理されている。清掃業務は委託業者が担当しているが、職員が再度点検し細かいところも清潔に保っていることから、今年度は4点とした。	5	4

3 利用者の満足度			30	24
①	意見の把握・反映への取組	利用者の希望に沿った個別リハビリ体制の整備、テレビの配置など、第三者評価等を基に利用者、家族のニーズの把握・分析を行い、サービスの質の向上に取り組んでいるので前年度と同様4点とした。	5	4
②	利用者満足度	第三者評価結果では、利用者は大満足が67.0%、家族も大満足が64.0%といずれも前年度と同様高い評価を得ているので前年度と同様4点とした。	5	4
③	苦情対応	以前から意見箱、要望書など直接意見を言える仕組みが整っており、苦情検討委員会を速やかに開催している。苦情があれば事実確認をし、すばやく対応しているので前年度と同様4点とした。	5	4
④	利用者への情報提供	利用者、家族への情報提供は十分に時間を取り、丁寧な説明を心掛けるなど適切に行っているので前年度と同様4点とした。	5	4
⑤	利用者への対応	一人ひとりの状況に合わせたサービス提供を徹底するとともに、在宅復帰後に向けてのトレーニングも実施している。しかし、重度者の受入れについては取り組みがまだ不十分であるので、前年度と同様4点とした。	5	4
⑥	施設・設備の管理状況	要介護者の入所施設ということで衛生面、安全面に配慮し、常にきれいに整理整頓されており、利用者、利用者家族からの苦情も受けていないことから、今年度は4点とした。	5	4

合計得点	80(80)	評価ランク	A+(A+)
------	--------	-------	--------

※()の記載は前年の評価

3 財務評価結果

経常収益については、23年3月期より増加し、当期25年3月期も安定して増加している。当期の経常収益は1,462百万円であった。当期経常増減額は、27,826千円であり、事業の効率性は上がっている。当期一般正味財産増減額についても31,490千円であり、正味財産は確実に増加し、事業の成果があがっている。

財政状態を示す貸借対照表からは、資産、正味財産の増加と負債の減少が見て取れる。特に正味財産は、対前年8%の増加である。

法人の財務基盤の安定性については、長期的財務内容の健全性を示す正味財産比率(純資産比率)は高く、当期は、62.7%である。設備と調達資金のバランスを示す固定長期適合率は、当期は、38.3%で、余裕を示している。借入金はあるが当該法人はゼロである。長期的財務内容は健全である。短期的財務内容を示す流動比率、現金預金比率の高さからみて、短期的な財務内容についても問題はない。健全である。

指定管理事業についても、予算の範囲内で、効率よく運営されており、指定管理者として相応しいといえる。

4 評価委員会評価 ☒ 適正 ☐ 不適

<評価委員の意見>

- ・適正と考えている。医師による医学的な管理により充実したリハビリを提供できていると考えている。人員配置や安全対策も適正であり、利用者が安心して通所・入所できると考えている。ただし、これだけの施設・体制があるのに、入所(ショート)が今ひとつ伸びていないのは残念。入所者が増加するような努力が求められる。
- ・在宅復帰率の高さは評価できる。今後は重度者の受け入れについても取り組まれることを期待する。
- ・施設が常に整理整頓され、清潔に保たれていることは、入所者の感染・事故防止にもつながることであり大いに評価できる。

⑨日本橋高齢者在宅サービスセンター

1 概要

施設名	中央区立日本橋高齢者在宅サービスセンター
所在地	東京都中央区日本橋堀留町1-1-1
施設長	芳賀 田鶴子（センター長）
運営主体	株式会社 ニチイ学館
定員及び利用者数	定員 1日 30人(予防を含む) 利用者数(契約者数) 79人
理念・方針	人々の健康と文化の創造に貢献するサービス企業を目指して、医療・福祉・教育等多角的な事業を幅広く展開する。
指定管理者の指定日	平成18年4月1日より指定管理者

2 所管課評価結果

評価項目及び評価のポイント			配点	得点	
1 サービスの提供			25	20	
	①	目的に沿ったサービス提供	ゲームなど集団活動による運動機能の向上や将棋などの趣味活動などのアクティビティなどにより通所介護の目的に沿ったサービスを提供している。また、介護保険制度の改正による長時間滞在の対応を開始し、区立施設として適切なサービス提供をしているので前年度と同様4点とした。	5	4
	②	サービス水準の確保	第三者評価結果では、利用者の92.9%の方が満足と回答し高い評価を得ている。24年度においてはセラピー犬によるセラピー活動など新しいアクティビティを提供した。離職率も低く、安定した職員体制により利用者との信頼関係が保たれているので前年度と同様4点とした。	5	4
	③	適正な人員配置	定められた基準を上回る利用者1人に対し職員2.9人体制を維持しており、適正な人員配置を行っている。さらに離職率が低く安定した人員体制となっているので前年度と同様4点とした。	5	4
	④	職員の資質の向上	毎月の研修、業務ミーティングを実施し、知識の取得や技術の向上を図っている。さらに、個々のスキルに合わせた研修体制(キャリアアップ制度)や自主学習システムeラーニングの活用を図っており前年度と同様4点とした。	5	4
	⑤	安全対策	以前よりヒヤリハットの報告などで安全対策に取り組んでいる。こまめにミーティングを行い、状況を把握するとともに、その場にはいない職員には連絡ノートで周知しているので前年度と同様4点とした。	5	4

2 事業運営				45	34
	①	事業計画に沿った運営	アクティビティの拡充や地域との交流など、事業計画に基づいた管理、運営を行っているので前年度と同様4点とした。	5	4
	②	コンプライアンス	毎年1回研修を行い、コンプライアンスに関する知識を定着できるよう取り組んでいるので前年度と同様4点とした。	5	4
	③	個人情報保護の管理等	年1回の研修、確認テストなどを行い、個人情報の扱いには常に注意しており、実習生の受け入れ時にも個別に指導を行っているので前年度と同様4点とした。	5	4
	④	危機管理体制	毎年2回、利用者も含め安全誘導のための避難通路確保、確認などの防災訓練を行っているので前年度と同様4点とした。	5	4

⑤	経費低減の取組	運営事業者共通の研修システムを導入することにより研修にかかる費用をおさえるとともに、無駄のない走行ルートの設定によりガソリン使用量削減による経費削減に努めているので前年度と同様4点とした。	5	4
⑥	適切な収支	ニーズに合わせたサービスの実施などにより利用率の向上に努め、安定した収支を確保し、平成24年度より光熱水費を区に納入している。しかし、清掃や警備の委託費は区が負担しているため前年度と同様3点とした。	5	3
⑦	中央区環境マネジメントシステムの実行	無駄のない走行ルートの設定など環境に配慮した送迎車走行の実施、こまめな温度調整を行うことによるエアコン稼働時間の短縮、不用な電源のoff等、中央区環境マネジメントシステムを実行しているので、前年度と同様4点とした。	5	4
⑧	地域福祉への貢献	近隣保育園、小学校、児童館との定期的な交流を図るとともに、町会に加入し盆踊りや防災訓練に参加している。地域との交流は積極的に行っているが、利用者以外の地域の高齢者への働きかけは、年に数件の相談対応にとどまっているため、前年度と同様3点とした。	5	3
⑨	施設・設備の管理状況	設備については定期的に点検を行い適正に管理されている。長崎県グループホームの火事にともなう消防点検により、カーテンが防災対応でなかったことを指摘されたが、すぐに対応したため今年度は4点とした。	5	4

3 利用者の満足度			30	26
①	意見の把握・反映への取組	法改正によるデイサービス7～9時間延長に積極的に取り組み、利用者の80%が移行し、福祉ニーズにこたえている。自社アンケートも実施し、利用者本人や家族の要望に沿った対応をしているので前年度と同様4点とした。	5	4
②	利用者満足度	第三者評価結果では、利用者の満足度は92.9%と高評価であり、特に職員が礼儀正しく丁寧に対応している点やデイサービスでの過ごし方について楽しいなど高い評価を得ているので前年度と同様4点とした。	5	4
③	苦情対応	職員が利用者一人ひとりの要望に応えるように対応しており、苦情は1件もないので前年度と同様5点とした。	5	5
④	利用者への情報提供	契約時、必要時に本人、家族に十分な情報提供をしている。連絡帳を使い、きめ細かくサービス提供中の利用者の状況を伝えているので前年度と同様4点とした。	5	4
⑤	利用者への対応	一律でなく利用者それぞれの希望に沿い対応している。おやつや帰宅前のカフェなど好評を得ている。職員が毎月違った簡単な小物の制作を企画し、喜ばれているなど、常に利用者の希望に沿うようなサービス提供を心がけていることから今年度は5点とした。	5	5
⑥	施設・設備の管理状況	機能訓練や入浴サービス等を提供する施設であることから、衛生面・安全面に配慮した施設・設備を管理しており、利用者、利用者家族からの苦情もなく適切に管理されていることから、今年度は4点とした。	5	4

合計得点	80(80)	評価ランク	A+(A+)
------	--------	-------	--------

※()の記載は前年の評価

3 財務評価結果

創業昭和43年の医療関連事業、ヘルスケア事業、教育事業を展開する上場企業である。
損益計算書から見える親会社単体の経営成績は、当期25年3月期については、売上高は増加したが、利益については減少している。売上高は、236,272百万円、当期純利益3,418百万円である。
連結グループでも同様に増収減益の結果が出ている。売上高267,191百万円、当期純利益、4,383百万円であった。これについては、語学教育関係の会社のM&Aがあり、それに伴う売上高の増加と経費の増加の影響が出ているからであると考えられる。
貸借対照表から見る親会社単体の財政状態は、資産、純資産ともに増加している。
当期25年3月期においてもリース資産、リース債務の増加計上、M&Aによる関係会社株式等の増加がある。借入金の返済は進んでいることから負債は、微減である。
法人の財務基盤の健全性については、長期的な経営指標の純資産比率は、40%台で推移し当期は若干上昇43.5%である。健全である。投資と資金調達のバランスを示す固定長期適合率もリース資産債務、M&Aの影響を受けて、若干落込みがみられるが、88.4%と余裕があり健全である。借入金比率は、20%台から17.4%に低下し安定している。
短期的な指標についても営業キャッシュフローはここ3期ともにプラスである。
流動比率も安定している。短期的な財務内容は健全である。
指定管理事業についても効率よく運営を行っており指定管理事業者として相応しいといえる。

4 評価委員会評価 ☒適正 ☐不適

<評価委員の意見>
・職員が一人ひとりの要望に応える対応はとても良い。
・利用者以外の地域の要介護者への働きかけは、これからも内容を充実させてほしいと思う。
・職員の資質の向上に自主学習システムの活用を図るなど努力が見られる。
・適正と考えている。サービス内容を常に工夫し、安定した人員体制により、良質なサービスが提供できていると思料される。職員の人材育成等も積極的であること等、評価できる点が多い。一方で、利用者以外への地域の要介護者への対応など課題はあるが、今後の対応の改善を期待している。

⑩桜川敬老館・浜町敬老館・勝どき敬老館

1 概要

施設名	中央区立桜川敬老館・中央区立浜町敬老館・中央区立勝どき敬老館
所在地	東京都中央区入船1－1－13、東京都中央区日本橋浜町3－37－1、東京都中央区勝どき1－5－1
施設長	桜川 剣持完次、浜町 宇野広二（平成25年4月1日から薄羽利行）、勝どき 菊池政悦
運営主体	アクティオ株式会社
定員及び利用者数	桜川（26,566人）・浜町（23,137人）・勝どき（37,476人） 合計 87,179人/24年度実績
理念・方針	利用者の更なる「自己実現活動」を支援し、「低下する機能」をケアすることにより、高齢者の「こころ・からだ」の健康に大きく寄与できる場となることを目指す。
指定管理者の指定日	平成23年4月1日より指定管理者

2 所管課評価結果

評価項目及び評価のポイント				配点	得点
1 サービスの提供				25	21
	①	目的に沿ったサービス提供	中央区内に居住する高齢者の健康保持に寄与し、その福祉の向上を図るという敬老館の設置目的に基づき、積極的に講座・事業を実施しており、24年度は健康づくり・生きがいづくりの講座・事業を23年度比432回増の2,416回実施し、延参加者数も23年度比6,672人増の24,923人であったことから前年度と同様5点とした。	5	5
	②	サービス水準の確保	本社担当が現場を頻繁に巡回して、職員・スタッフのケア及び事業計画の進捗状況のチェックをしており、3館共にほぼ同じ水準、同じ方向性で運営がなされている。区が随時行う実地踏査でも確認できているため、前年度と同様4点とした。	5	4
	③	適正な人員配置	利用者の総数及び男性利用者が多い勝どき敬老館は他館と比べ常勤を1人増やすとともに男性スタッフを4人とし、直営の時から手芸や工作クラブが充実している浜町敬老館は他館と比べ女性スタッフを1人増とするなど、その地域に即した細やかな人員配置を行っているため、前年度と同様4点とした。	5	4
	④	職員の資質の向上	3館の館長と区職員による館長会や館内ミーティングなどを定期的を実施して、常に情報の共有化を図っており、館長研修、職員研修も計画的に実施している。館長研修については企業独自の研修『見られ公務員研修』や高齢者福祉施設の館長が集まった館長会議に参加することで、問題点の共有や解決策を見出す機会を設けている。以上の点から前年度と同様4点とした。	5	4
	⑤	安全対策	年に1度防火・防災訓練を実施しているほか、感染症予防グッズを常備するなどの対策を講じている。また、24年度の夏期には高齢者施設ということで熱中症対策に特に力を入れ、熱中症講座の実施、熱中症グッズの配布を行うだけでなく、7月～9月の間開館時間を1時間延ばし地域の熱中症シェルターの役割も果たした。この点から前年度と同様4点とした。	5	4

2 事業運営				45	39
	①	事業計画に沿った運営	計画書に沿った運営を行っており、実績においても24年度の利用者数は87,179人（前年度78,702人）・新規登録者数は710人（前年度642人）と前年度を大きく上回っているため、前年度と同様5点とした。	5	5
	②	コンプライアンス	社内不正など企業倫理に関する通報を第3者が受け付ける企業倫理ホットラインが設置され、敬老館事務所にポスターの掲示がされている。また、敬老館内で問題が起きた際は敬老館条例・敬老館条例施行規則の解釈を区とともに検討していく姿勢が見られるため、前年度と同様4点とした。	5	4
	③	個人情報保護の管理等	個人情報保護法や同保護条例等に関する講習及びテストを社員・スタッフ向けに年1度必ず実施し、一定の基準に満たない場合は再教育を行う制度があり、区の実地踏査による聞き取りにおいても個人情報に対する意識が高いことがうかがえるため、前年度と同様4点とした。	5	4
	④	危機管理体制	各館で自衛消防訓練・中央区地域防災無線操作訓練を実施した。また、振り込め詐欺・熱中症などの啓発については、区内でそのような事件・事故等の報告があがるとすぐにポスター掲示及び来館者一人ひとりへの声掛けを行っている。その点から前年度と同様4点とした。	5	4

⑤	経費低減の取組	前年同様、職員・スタッフ自らによる講座を実施するだけでなく、区内ボランティアを活用しての講座や企業協力による講座等により事業費の削減に努めながら講座数の充実を図った。また使わない部屋の消灯や紙コップの再利用などを利用者に呼びかけ、館全体で物品の有効利用や節電に努めたため、前年度より1点加し5点とした。	5	5
⑥	適切な収支	平成24年11月に監査を実施したが、運営に係る費用は大きな問題もなく適切に管理されていたため、前年度と同様4点とした。	5	4
⑦	中央区環境マネジメントシステムの実行	中央区環境マネジメントシステムに基づき環境に配慮した管理運営が実施された。24年度は夏期に緑のカーテンを実施し、室内温度の抑制に努めた。また、新たにウォームシェアの啓発活動も実施している点から前年度と同様4点とした。	5	4
⑧	地域福祉への貢献	民生委員の会議に参加し、独居高齢者への敬老館利用を働きかけたり、しばらく来館していない利用者へ安否確認を込めた「お元気ですかコール」などの取組を新たに実施し、地域見守り施設としての役割をしっかりと担っている。また、前年に引き続き区内の児童館や保育園等との交流も積極的に行っているため、前年度より1点加し5点とした。	5	5
⑨	施設・設備の管理状況	古くなったマッサージ器や給茶機の買替えを行っただけでなく、健康づくりの場として運動しやすいよう床面を張り替えるなど随時整備を行っており、区職員が実地踏査を行った際の利用者の反応も上々である。清掃も行き届いているため、今年度は4点とした。	5	4

3 利用者の満足度			30	25
①	意見の把握・反映への取組	利用者アンケートや講座参加者へのアンケート、利用者懇談会・運営協議会を実施し、利用者の声に耳を傾け反映させる運営を行っているため、前年度と同様4点とした。	5	4
②	利用者満足度	全体の運営に対し、アンケート結果によると3館あわせて「非常に良い」「良い」が全体の85% (23年度実績と比べ3ポイント上昇) となっているため、前年度と同様4点とした。	5	4
③	苦情対応	苦情対応についてはアンケート結果によると3館あわせて「非常に良い」「良い」が全体の70% (23年度実績と比べ1ポイント上昇) となっているため、前年度と同様4点とした。	5	4
④	利用者への情報提供	毎月各館で実施される講座・事業は館内やインターネットで告知されるのはもとより他の2館の情報も提供されているほか、他施設の講座・事業等の情報提供も積極的に行われている。また、町会や高齢者クラブなどへ行事予定表をはさんだパンレットを定期的に持っていくなど地道な活動も続けている点から、前年度と同様の4点とした。	5	4
⑤	利用者への対応	利用者への対応・マナー等はアンケート結果によると3館あわせて「非常に良い」「良い」が全体の91% (23年度実績と比べ5ポイント上昇) となっているため今年度は5点とした。	5	5
⑥	施設・設備の管理状況	施設・設備の管理状況についてはアンケート内で必要な設備・備品の聞き取りを行い、必要かつ予算内で対応できるものについてはすぐに対応しているため今年度は4点とした。	5	4

合計得点	85 (83)	評価ランク	A+ (A+)
------	---------	-------	---------

※()の記載は前年の評価

3 財務評価結果

当該法人は、創業昭和62年の指定管理事業、施設運営受託事業専門の会社である。売上高は安定的に毎年増加しており、直近の24年12月期は、6,069百万円の売上高を達成している。これは、対前年で1.33倍、額にして1,503百万円の増加を達成している。当期純利益についても年々増加し、24.12期は、対前年の3.45倍の103,192千円である。増収増益の結果を出している。

財政状態については投資有価証券取得の影響のため、22年12月期より、資産、負債は、増加基調にあるが、24年12月期では資産1,652百万円、負債1,028百万円、純資産623百万円である。借入金の返済は進んでおり、24年12月期末では借入金残高は0円である。純資産は、毎年の当期純利益が内部留保され増加している。純資産額は、対前年1.2倍の623百万円である。

法人の長期的な財務基盤の安定性については、直近期、純資産比率は、37.8%であり、この3期、30%台を保っている。固定長期適合率にみる固定資産と調達原資の比率は、112.4%と改善している。借入金比率については、返済が進み、残高が0である。総合的にみて安定している。

短期的財務内容の健全性を示す流動比率は、24年12月期、において91.8%、現金預金比率は22.9%であり、いずれも改善している。現金預金回転期間は月支出額の約0.77月分である。

事業の効率性を総合的に示す自己資本利益率(ROE)は直近期では、16.5%と約3倍に事業効率は高まっている。

中央区の指定管理事業については、予算の範囲内で、効率よく運営されており、指定管理者として総合的に勘案して相応しいといえる。

4 評価委員会評価 ☒適正 ☐不適

<評価委員の意見>

- ・敬老館の知名度アップに期待する。
- ・メニューがたくさん増えて、利用しやすくなった。地域の見守り施設としての敬老館の役割に期待している。
- ・毎年利用者増となっているのは評価できる。
- ・適正と考えている。PDCAサイクルが十分に機能をしていると考えられる。その結果として、利用者増加や利用者へのアンケートで大変良好な回答が得られたものと思料される。さらに地域福祉への貢献にも積極的であり、その他(熱中症対策や利用者増加のための工夫など)にも評価できる点が多い。